

事務事業評価シート(事後評価)

事業コード 05-01-02	事務事業名 地域福祉コーディネーターなどの育成・配置	所管部課 福祉部 生活福祉課
-------------------	-------------------------------	----------------------

施策コード 笑1-1	施策名 地域福祉の推進	施策目標 多様な福祉サービスの充実とともに、お互いに支えあうしくみを整え、だれもが住み慣れた地域で安心して暮らすことのできるまちをめざします。
---------------	----------------	--

事務事業の概要	事務事業の目的	根拠法令等 <input type="checkbox"/> 法律 <input type="checkbox"/> 条例・規則 <input type="checkbox"/> 政令・省令 <input checked="" type="checkbox"/> 要綱・要領
	事業内容・実施方法等／補助の概要：補助団体の概要(団体名・団体の活動内容・補助金の活用内容等)、補助金の概要(国・都基準の有無・対象者拡大の有無・上乗せ補助額・市単独補助額)等 ※該当する予算事業名・節目を明記する	
	平成22年度、23年度は試行期間として市を4つに分け、うち1つに1人の地域福祉コーディネーターを配置し実施。実績を分析しながら全市域での実施に移行する予定。また、本事業の趣旨に賛同し、地域福祉コーディネーターとともに問題解決に協力してくれる市民ボランティアを地域福祉推進員として位置づけている。 東京都地域福祉包括補助事業の先駆的事业として平成24年度まで1,000万円までは10/10、1,000万円を越える部分は1/2補助。	
事業開始時期	22 年度	実施形態 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他 ( )

項目	単位	20年度	21年度	22年度	23年度
事業費(A)		0	0	9,749	9,409
財源内訳					
国庫支出金・都支出金		0	0	9,749	9,409
地方債	千円	0	0	0	0
その他 ( )		0	0	0	0
一般財源		0	0	0	0
所要人員(B)	人	0	0	0.02	0.02
人件費(C)=平均給与×(B)	千円	0	0	162	163
臨時職員賃金等(C')	千円	0	0	0	0
総コスト(D)=(A)+(C)+(C')	千円	0	0	9,911	9,572
単位当たりコスト (E)=(D)/(地域福祉コーディネーター )	千円	0	0	9,911	9,572

活動等指標	単位	20年度	21年度	22年度	23年度
① 地域福祉コーディネーター	実績値 人			1	1
② 地域福祉推進員	実績値 人			55	
《指標の説明・数値変化の理由 など》					
事業に協力してくれる市民ボランティアによる地域福祉推進員が増えることによりよりきめ細かな地域福祉課題の発見、解決が図れる。					
成果指標	単位	20年度	21年度	22年度	23年度
一 相談件数	目標値 件				
	実績値 件			70	
二 問題解決件数	目標値 件				
	実績値 件			34	
《指標の説明・数値変化の理由 など》					
市民や地域福祉推進員の協力等により発見される地域課題、解決できる件数の増加。					

事業環境等	市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など)	第2期地域福祉計画策定時にアンケート等を行い、事業に反映させている。	
	都内26市のサービス水準との比較 (平均値、本市の順位など)	<input checked="" type="checkbox"/> 上 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 下	都内では立川市で地域福祉コーディネーターを置いているが、地域福祉推進員による問題解決への取り組みは当市が初めてである。
	代替・類似サービスの有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	代替・類似サービスはない。

事業コード 05-01-02	事務事業名 地域福祉コーディネーターなどの育成・配置	所管部課 福祉部 生活福祉課
-------------------	-------------------------------	----------------------

施策コード 笑1-1	施策名 地域福祉の推進	施策目標 多様な福祉サービスの充実とともに、お互いに支えあうしくみを整え、だれもが住み慣れた地域で安心して暮らすことのできるまちをめざします。
---------------	----------------	--

【一次評価】

検証項目	ランク	一次評価	○検証項目、評価の判断理由 ○事業実施上の課題や今後改善すべき点等
A	事業の優先度 (緊急性)	2	<p>■ 拡充</p> <p>□ 継続実施</p> <p>□ 改善・見直し</p> <p>□ 抜本的見直し</p> <p>□ 休止</p> <p>□ 廃止</p> <p>地域の問題解決力はさほどの緊急性は有しないものの、市民が生活していくうえでなんとなく感じている不安や心配事に対応できる仕組みは必要である。 本事業は、地域福祉コーディネーターを配置することにより、福祉に関する地域での課題解決に向けて取り組もうとする市民を専門的な知識でサポートするものである。 現状では、問題解決に向けてボランティアや地域で活動している各種団体、行政機関との協力、調整が必要であることから、もともと市民とともに地域福祉の増進を推し進めている社会福祉協議会に委託して事業展開している。 市民から寄せられる相談は、問題が長期間に及んだり、複数の事象が関係するなどして解決の難しいものもあるが、市民ボランティアである地域福祉推進員と協力、連携することにより、相談者を媒介にして地域と共に問題解決の方法を探る中で、地域のつながりを再生しようとしている。 今後、全市域へのコーディネーター配置による事業の拡充を予定しているが、地域福祉コーディネーターが活動をより活発に推進していくためには、事業への理解と協力をしてくれる地域福祉協力員を増やしていくことが必要と考えている。</p>
	事業の必要性	3	
	事業主体の妥当性	3	
B	直接のサービスの相手方	3	
	事業内容等の適切さ	3	
	受益者負担の適切さ	3	
C	市民ニーズの把握	2	

検証項目の見方 A:事業実施の意義を検証する項目 B:事業の内容・実施方法を検証する項目 C:市民ニーズの反映度を検証する項目

【二次評価】

検証項目	ランク	二次評価	○検証項目、評価の判断理由 ○事業実施上の課題や今後改善すべき点等
A	事業の優先度 (緊急性)	2	<p>市民が主体となり支え合う地域社会の形成を図るために、地域福祉コーディネーターを配置し、その協力者としての市民ボランティアである地域福祉推進員を増やしていくことについては、今後、益々増えるであろう地域課題の解決の為に必要と思われる。平成22年度より1名体制で試行しているが、田無総合福祉センター内の社会福祉協議会が運営するボランティアセンター内に配置していることから、連携した対応が可能となっていると推察される。将来的にはコーディネーターを4名配置することとしているが、場所の確保や他の施策等との連携・協力など、事業がスムーズに実施できる環境づくりを検討されたい。また、当該事業については、平成24年度までは東京都の補助金が10/10ついているが、時限付きであることから、将来の体制については、事業の全体像を見据え慎重に行うことが必要である。</p>
	事業の必要性	2	
	事業主体の妥当性	3	
B	直接のサービスの相手方	3	
	事業内容等の適切さ	3	
	受益者負担の適切さ	3	
C	市民ニーズの把握	3	

検証項目の見方 A:事業実施の意義を検証する項目 B:事業の内容・実施方法を検証する項目 C:市民ニーズの反映度を検証する項目

【行革本部評価】

行革本部評価	評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等
<p>■ 拡充</p> <p>□ 継続実施</p> <p>□ 改善・見直し</p> <p>□ 抜本的見直し</p> <p>□ 休止</p> <p>□ 廃止</p>	<p>地域における福祉課題の解決のためのコーディネーターの配置は、これまでの試行により一定の有効性が確認されてきたところであり、今後これを拡充することで地域の課題解決力の向上を図ることは、行政の今日的課題への対応という観点からも重要な取組であるといえる。</p> <p>ただし、コーディネーターの配置場所の検討に当たっては、他の地域支援機能との関連性等にも配慮しながら、効果的かつ効率的な事業運営となるよう配慮するとともに、現在の時限的な都補助金が打ち切られた後の財源確保の観点から、地域福祉関連の事業全体を効果的かつ効率的なものとなるよう整理する取組に努められたい。</p>